

中学校 音楽科 学習指導案

指導者 原 寛暁

日 時 令和7年12月16日(火) 第6限 14:25～15:15
場 所 第2音楽室(3号館3階)
学年・組 中学校1年A組40人
単 元 身の回りの音を意識して聴くことにつながる学びの提案

- 目 標**
1. 何気ない日常の音への興味・関心を持つ。(思考力, 判断力, 表現力等)
 2. 音から感じ取ったどんな音の大小、響きや音色などを形や色に置き換えて他者に伝える。(思考力, 判断力, 表現力等)
 3. 他者が持つイメージに共感して感じ取る。(学びに向かう力、人間性等)

指導計画(全3時間)

- 第一次 音風景にタイトルをつけて、イメージを絵にしてみよう 1時間(本時)
第二次 課題として採取した音風景を実際のイメージ画にまとめる 1時間
第三次 作品の相互鑑賞と意見交換/映像と音の結びつきについてまとめる 1時間

授業について

この単元では、普段の何気ない生活の中で気にも留めないような音と、色彩や形に着目し、それらの中から美しさを発見する感覚、感性を育成することをねらったものである。フランスの作曲家クロード・ドビュッシーは、葛飾北斎の浮世絵を見た時のイメージを元に、交響詩「海」という名曲を生み出した。このように、芸術においては色彩・形と音は表裏一体の関係を持っている。この授業ではこのような考え方にに基づき、音楽と美術のコラボレーションとして発想し展開を行ったものである。また、美術科においては国際交流的な実践(文化的背景と映像・音)を計画されており、それにつながる実践をという考え方を持っている。本授業計画において育成したい資質能力は「身の回りの些細な物事にも美しさがあることに気づく」感性を育成することにある。対象クラスの生徒たちは音楽活動には概ね前向きな集団であるが、このような他教科とコラボした授業実践は初めての経験である。音楽における自己表現の積極性には個人差があるので、苦手な生徒にも自己表現の場を保障したい。また本単元に照らし、生徒ができることとできないことなどを整理して、今後の授業実践に繋げていきたい。日常の中の何気ない音や色彩、音に着目することは意識しなければ出来ないことであるが、本授業の取り組みを通して映像と音は表裏一体であることに気づかせ、より豊かな感性の育成を目指したい。また、本単元は教科横断的 STEAM 教育アプローチを目指したものであるともいえる。

題 目 日常の中の何気ない音のイメージを色と形で表現してみよう

本時の目標

1. 音のイメージを感じ取り、色と形を用いて表現する。(思考力, 判断力, 表現力等)
2. 他者のイメージを感じ取り、共感する力を養う。(思考力, 判断力, 表現力等)
3. 参考作品の鑑賞を通して、今後の表現の着眼点と方法を学ぶ。
(学びに向かう力、人間性等)

本時の評価規準（観点／方法）

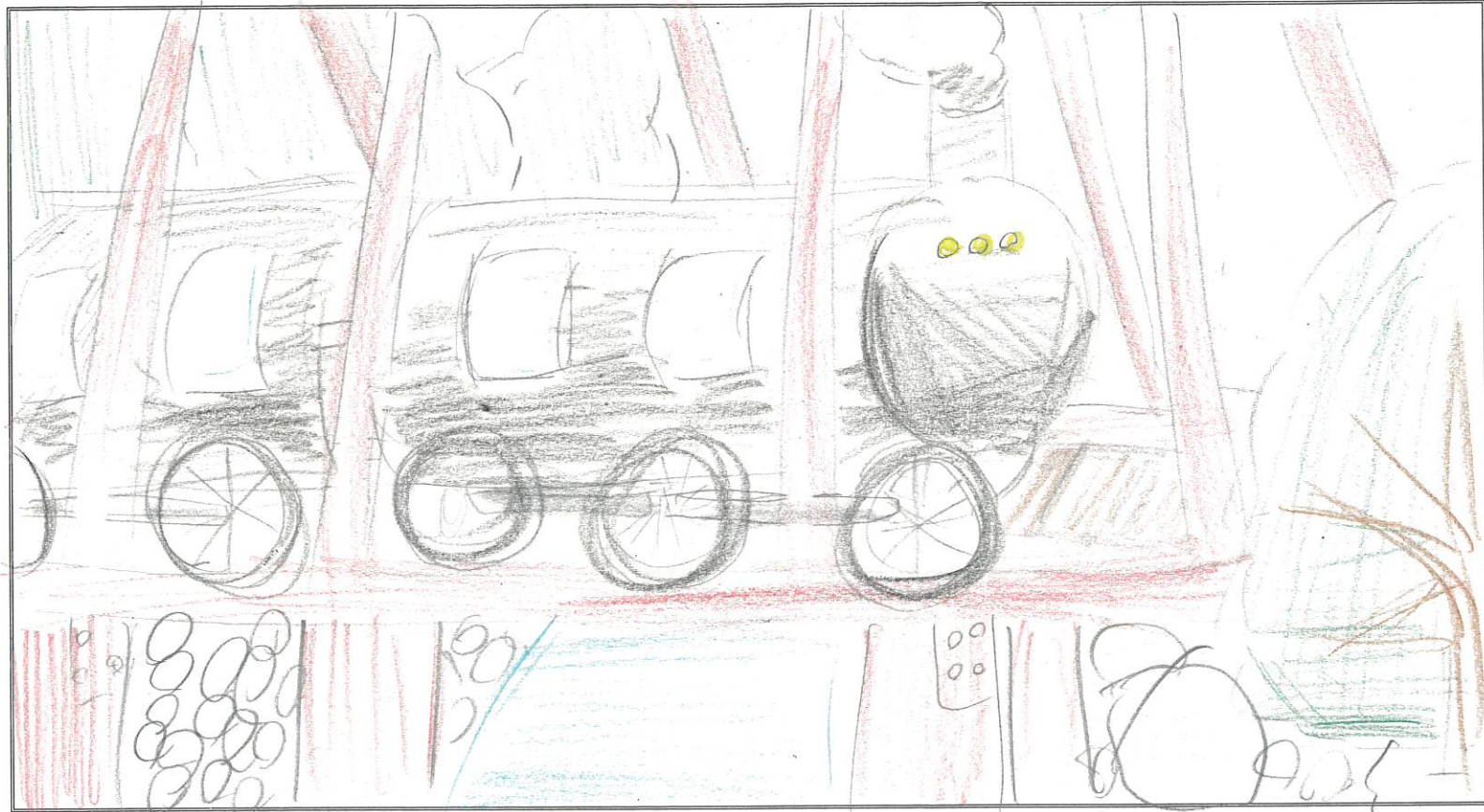
1. 音のイメージを感じ取り、色と形を用いて表現している。
（思考・判断・表現／生徒観察）
2. 他者のイメージを感じ取り、共感している。
（思考・判断・表現／後日ワークシート）
3. 参考作品の鑑賞を通して、今後の表現の着眼点と方法をもって見通しを持っている。
（主体的に学習に取り組む態度／後日 作品評価・ワークシートのプロセス評価）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 生活の中の何気ない音への注意を広げる	「キジバトの鳴き声」の話を聞く	授業者の日常の音風景を紹介し、生徒の興味関心を引き出す →キジバトの鳴き声を楽譜に掘り起こし、ピアノで実演する
展開 音当てクイズ 答えの発表 参考作品の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・数種類の音を提示し、どこの何の音かをグループで予想する ・グループで予想した音を色や形に置き換え、絵にしてみる ・書画カメラを使用し、どのようなイメージで描いたのかを発表する ・音からどのような情報を得て、それぞれのグループがどのようにイメージしたのかを整理する <ul style="list-style-type: none"> ・参考の音風景を聴き、それに基づく参考作品を鑑賞する→製作者の説明を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・音風景の提示→付随する映像は見せず、音のみを5種類提示する ・巡回指導 <ul style="list-style-type: none"> ・正解することが目標ではなく、音からどのようなイメージを膨らませることが出来たのかが大切であることを押さえる →制作者の着目点と表現方法を、学ぶ
まとめ 本単元のねらいと次時への課題の説明を聞く	本単元のねらいを理解する 次時への課題の内容を理解する	「日常の何気ない音風景に着目すると、普段見過ごしているものが見えてくる」ことを押さえる 材料収集時（ギガパソコン使用時）の安全確保の指導
備考 7つのグループに分けた座席の設定、色鉛筆セット、書画カメラなどを用意しておく		

1 A 日常の中の何気ない音に ちょっと心を寄せてみよう

(C)グループ メンバー()



この絵にタイトルをつけるとしたら? (リバー鉄道)

実践上の留意点

1. 授業説明

本実践は、普段の何気ない生活の中で気にも留めないような音と、色彩や形に着目し、それらの中から美しさを発見する感覚、感性を育成することをねらったものである。フランスの作曲家クロード・ドビュッシーは、葛飾北斎の浮世絵を見た時のイメージを元に、交響詩「海」という名曲を生み出した。このように、芸術においては色彩・形と音は表裏一体の関係を持っている。

この授業ではこのような考え方にに基づき、音楽と美術のコラボレーションとして発想し展開を行ったものである。また、美術科においては国際交流的な実践（文化的背景と映像・音）を計画されており、それにつながる実践をという考え方を持っている。本授業計画において育成したい資質能力は「身の回りの些細な物事にも美しさがあることに気づく」感性を育成することにある。

対象クラスの生徒たちは音楽活動には概ね前向きな集団であるが、このような他教科とコラボした授業実践は初めての経験である。音楽における自己表現の積極性には個人差があるので、苦手な生徒にも自己表現の場を保障したい。また本単元に照らし、生徒ができることとできないことなどを整理して、今後の授業実践に繋げていきたい。日常の中の何気ない音や色彩、音に着目することは意識しなければ出来ないことであるが、本授業の取り組みを通して映像と音は表裏一体であることに気づかせ、より豊かな感性の育成を目指したい。また、本単元は教科横断的 STEAM 教育アプローチを目指したものであるともいえる。

指導にあたっては、男女混合の7班を設定し時間を限定してのグループ活動を設定した。設定した音風景は、①「鳥のさえずり」を伴った森の中の音 ②駅の構内の雑踏 ③津和野盆地を走る「SL 山口号」の汽笛の音 ④広島平和公園で毎朝放送される「平和時計塔」の鐘の音 の4つであった。同じ音風景を聴いてイメージし描く絵は、共通した観点もありつつ、それぞれが違ったイメージを膨らませたものであり大変興味深かった。その後で美術科教諭による参考作品の鑑賞では、レヴェルの高い説明と作画を交えたもので、生徒にとって大変参考になる体験とすることが出来たと思われる。

この授業につながる授業としては、年越しを挟んで、

- ① 浮世絵から着想を得たオーケストラ作品の鑑賞（美術→音楽）、既存の音楽作品からプロのイラストレータがイメージし創られた作品の鑑賞（音楽→美術）の逆の2方向のアプローチに触れさせることで、美術と音楽が表裏一体であることを学ぶ。
- ② GIGA パソコンを使用し、音と風景を記録したものを材料にグループ毎に「作画」をし、相互発表を行う。

という授業計画を策定している。これによって、視覚と聴覚が表裏一体を成す「音風景」の存在を意識できる態度、より多角的な態度で芸術に触れる態度を育成したい。これは、その他のあらゆる活動に応用的に生かされていく可能性を内包していると考えている。

2. 研究協議

研究協議では、以下のような指摘があった。成果として、「7人班は結構多いな、と思ったが、リーダーが中心となってグループ活動が機能していたのが印象的だった。」「最後に作品について説明を求めるよ、と活動中に伝えるタイミング、さりげなかったがそれで生徒たちにスイッチが入ったのかなと感じた。」「絵については、全グループ風景で表していたのも印象的だったが、答え合わせの際に共通していたことと、生徒たちが感じ取ったことをそのまま表した点があり興味深かった。」

授業者の反省点として、初歩的な機材操作のミスが起こってしまったのが悔やまれた。日常的に機材操作を十分に練習し、活用に関してもっと慣れていく必要を感じた。